

## 2020年度後期 授業に関する学部・学科・センター自己点検・評価

2020年度後期に授業アンケートにお答えいただきありがとうございました。

授業アンケート結果を参考にして、それぞれの先生が自己点検・評価をされました。学科長がそれらをまとめ、さらに学部長が総括をした自己点検・評価をここに掲載いたします。

良かったことはさらに継続し、改善すべきことは今後の授業にむけて学生のみなさんにフィードバックをしていきます。

今後とも授業改善のために、「学生による授業評価アンケート」や「授業について教育改善委員の意見を聞く会」にご協力ください。

2021年10月

## 目 次

文学部	1
人間科学部	2
教育学部	3
英語学科	5
日本語日本文化学科	6
総合文芸学科	7
心理学科	8
都市生活学科／生活学科都市生活専攻	9
食物栄養学科／生活学科食物栄養専攻	10
子ども発達学科	11
ファッション・ハウジングデザイン学科	12
教育学部	13
全学共通教育センター	15
キャリア教育センター	17
外国語教育センター	18
教職支援センター	19
教務部	20

2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 文学部

氏名 打田 素之

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

遠隔授業が導入されて 1 年がたち、各学科とも manaba をはじめとした遠隔システムが十分に活用されている。科目によっては、リモートならではの利点が活かされた授業もあるようだ。

(2) 改善すべき点

全ての教員が「完全に」遠隔システムに習熟しているわけではない。支援室に助けを仰がなければならぬケースもあり、課題がないわけではない。特に授業を教室から中継する場合、対面の学生と PC 画面の学生の両方に対応しなければならず、遠隔と対面が並行して行われる場合、円滑な授業運営には、しばらく時間がかかりそうである。

他に、遠隔の場合、成績評価の難しさが挙げられる。対面であれば、課題への取り組みの程度は、現場で確認できるが、リモートで特にカメラがオフとなっている場合、評価が難しいケースがある。試験の実施においても、実質「全て参照可」となるため、実施方法を工夫する必要がある。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点  
(学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

これは非常勤の先生からの声であるが、Zoom 等で授業を中継する場合、ノートパソコンのカメラとマイクでは限界があり、PC から少し離れると声が拾えない、黒板の板書が見えないという問題が起こっている。広角で感度の良いマイクを備えた Web カメラがあれば、この問題はほぼ解決されるのだが、現在はまだその準備がない。今後の機器の充実が望まれる。

(4) その他（自由記述）

提出日：2021 年 7 月 15 日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 人間科学部

氏名 竹中 康之

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、前期科目の大部分が遠隔授業で実施された。後期科目は、演習科目や実験・実習科目などが対面授業で実施されたものの、多くの科目が前期に引き続き遠隔授業での実施となった。遠隔授業では、前期の経験を生かし、松蔭 manaba を基本としつつ、Web 会議システムや動画資料を前期より多く使用し、より充実した授業が展開された。また、双方向のやりとり、適切な授業時間外学習の設定により、授業の到達目標が達成されたと実感している教員が増加しているようである。

### (2) 改善すべき点

遠隔授業を受講する環境は学生によって差が大きく、前期に引き続き、環境整備・充実をする必要がある。また、遠隔授業におけるコミュニケーションの難しさを挙げる意見が散見された。自己点検評価の中には、課題・問題点のみの言及にとどまり、改善策が見出せていないケースもあった。取り組みの事例など、情報を共有する場が必要のようである。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 (学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

遠隔授業の実施・改善に向けた学科からの主な意見：

- ・ 授業アンケートの提出率が低いため、学生が確実に授業アンケートを提出できるような支援・工夫。
- ・ ICT 活用のサポート（非常勤講師）
- ・ 遠隔授業に関して、講義、演習、実習といった多様な授業形態における取り組みの例と工夫について、共有可能な情報の発信。

### (4) その他（自由記述）

提出日：2021 年 7 月 17 日

2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教育学部

氏名 谷川 弘治

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

- ◇ 自己点検評価票において学生の目標達成状況をみる半数余の 29 文書において「達成された」と評価していた。
- ◇ 遠隔授業を含め多くの授業で学生の参加度を高め、何らかのやりとりによって「学生の視点」や「つまづき」にアプローチとする努力がなされていた。
- ◇ 遠隔では、ズームによってやり取りのある場面設定を進めるケースが増えていた。
- ◇ 対面授業を含めてマナバ、You Tube、Google Form など IoT を取り入れる傾向が認められた。学科コメントも参照されたい。

2020 年度後期担当授業に関する自己点検・評価票における目標達成状況 (53 文書)

出現した用語	文書数	率
達成された	29	54.7%
やや達成された	21	39.6%
やや達成されていなかった	3	5.7%
達成されていなかった	0	0%
計	53	100%

2020 年度後期担当授業に関する自己点検・評価票における IoT 関連用語出現状況 (53 文書)

出現した用語	文書数	率
マナバ manaba	40	75.5%
ズーム zoom	29	54.7%
You Tube	6	11.3%
Google Form	4	7.5
タブレット端末	3	5.7%
On line アプリ	1	1.9%

(2) 改善すべき点

- ◇ 実習経験やボランティア体験などの経験不足が大きく影響する領域がある。学外での活動が制限される中で、どのような対応が考えられるか、難しいところである。現場から講師を依頼するには完成年度までシラバスを変えられないという事情もあるが、学科内でのやり取りをたいせつにしたい。
- ◇ 実技を伴う科目ではソーシャルディスタンスを保ち、マスクをしながらの会話が難しい場合がある。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点  
（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

FD委員会あて

- ◇ 各学科の固有の情報交換が大切と考えるため、年1回は学科単位でのFD研修会をお認めいただきたい。
- ◇ マナバ、ズーム、その他のシステムを活用する手法は、今年度も研修会で取り上げられるが、今後も、継続してノウハウの共有をはかれるようお願いしたい。

教学あて

- ◇ ①ズームで顔を見せながらプライバシーを守る方略、②ズームにつなぎながら実際には聞いていない学生を減らす方略、③接続が途中で切れないための対処法について、後期におこなう実験的授業で明らかにしていただきたい。
- ◇ 中規模の教室でマスクをつけて、大声を出さないでやり取りを行うため、マイク入力データをプロジェクターのスピーカーにFMあるいはブルーツースで飛ばすなどの装置を考えていただきたい。
- ◇ 完成年度後の教育学科カリキュラム再編にあたっては、教学のご理解とご協力が欠かせません。意見交換の場をいただく必要があるかと思われませんが、よろしく願いいたします。
- ◇ 小学校模擬教室（544）とタブレット端末、SKYMENU等の活用については、今後ともご支援いただきたい。
- ◇ 遠隔でのゲストスピーカーの参加は、現場職員も参加しやすくなる。そのため、遠隔授業ではもちろんだが、対面でも一定の要件を設定の上、お認めいただきたい。

(4) その他（自由記述）

とくになし

提出日：2021年8月10日

## 2020年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 英語学科

---

氏名 F Shiobara 川中 紀子

---

### (1) 良かった点

遠隔授業では、Manaba, Zoom, Teams 等を活用し、多大な準備をしていたことに多くの教員から言及があった。様々な授業方法を模索しながら試行錯誤の中で、科目の特性を活かした授業方法を、各教員が工夫した軌跡を共有することができた。「授業の目標を達成できたか」という問2についても、多くの授業で4.0点以上、ほぼ全ての授業で3.5点以上という高スコアが報告されている。

### (2) 改善すべき点

学生が目標を達成できた度合い「問2」について、自己点検票では記入を求められているが、その数値と、教員自身の「自己点検評価」は必ずしも一致していない。例えば、3点台であっても「1達成できた」とする教員がいる中、3点台後半では「2 やや達成できた」、または「あまり達成できなかった」と判断した教員もいる。

問2に関して、4.45という高い数値にもかかわらず、「2 やや達成できた」という控え目な自己点検をした教員もおられ（英語のネイティブ・スピーカー教員である）、数値に対しての自己評価にバラつきがあるのは気になった。

「総合評価」ではなく、「学生の達成度」に焦点を当てた自己点検評価票にコロナ禍から変化した理由については、学科の教員から疑問視する声があった。項目を限定するよりも、以前のように総合的に自己点検する方が、よりきめ細かな評価が出来るという点で、適切な場合もあるのではないか、という意見も寄せられた。学生にとっての「達成度」と「総合評価」に乖離がある場合もあるので、このままの点検項目で良いのかを、再検討する必要があるかもしれない。画一的に数値で見るのではなく、数字に表れていない自由記述欄なども何からの形で反映した自己点検も望まれる。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

学生が学内で遠隔授業を受講できるような設備を設けたことは良かった。学生が「英語を話す」ことを実践するスペースを十分に活用できていない場合がある。語学の授業には、「話す」「聴く」力を養成することが必須であるので、より多くの学生が学内のシステムを活用することが望まれる。遠隔授業に奮闘している教員のために、「研修会」を含めて更に支援を続けることが望まれる。

提出日：2021年6月17日

2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 日本語日本文化学科

氏名 田附 敏尚 黒木 邦彦

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

- 学科全体を見れば、20 年度前期よりは遠隔授業に対応できている。
- 授業によっては、遠隔の方が活性化できている。  
全体としては遠隔授業に慣れてきたということもあり、それぞれ、20 年度前期の改善点が改善されているところもあるので、自己評価点検評価はある程度正常に機能していると考えられる。

(2) 改善すべき点

- 遠隔授業に対応できない教員の補助。ただし、どの教員にも、人の面倒まで見るほどの余裕は無い。
- 教員の点検票が多過ぎて、担当する授業が多い教員ほど、ひとつひとつを丁寧に自己評価する余裕が無い。

特に 2 点目に関しては、自己点検評価のシステムとして考えなければならない点である。「自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください」とのことなので、ここに言及しておく。

20 年度から持っている授業すべての点検をするということになり、授業を多く持っている教員は多数の評価票を書く必要が生じた。全体的には以前と比べて字数が明らかに減っているなどということはないが、どうしても授業数が多い教員の評価票は相対的に文字数が少ない。むしろ、文字数が多ければ良いというものではないので、一概には言えないが、ここで点検する授業の数が多くなった結果、丁寧な自己評価が行われないのであれば本末転倒ではなかろうか。正論を言うなら、点検する授業が多くても丁寧にそれを行い、改善のサイクルを回すべきだというのは理解するところだが、実際問題として個人のもつ時間と労力は限られている。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点  
(学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

- 遠隔授業遂行のための指導。教員同士で助け合える範囲は限られているので。
- 点検票数の削減。

(4) その他（自由記述）

提出日： 2021 年 6 月 30 日

2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 総合文芸学科

氏名 田附 敏尚

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

本学科では、さまざまな文芸を対象にした学びを通して、幅広い知識を習得すると同時に批判的読解力を習得するほか、それらにもとづいた表現力を養うことを目指している。前期同様、遠隔授業への対応が大変な中、非常勤講師も含めて各自出来る限りの努力や工夫をして授業に臨んでいたことが看取された。

遠隔授業においてもこれまで本学科が大事にしてきたアクティブで双方向的な学びが失われなような工夫が凝らされており、特に、遠隔ならではの ICT の利活用がなされている科目もあり、本学科の学びが ICT の利活用と相性が良い面があることがうかがえた。

**(2) 改善すべき点**

上述の通り、多くの授業担当者がこれを機に授業改善を目指しており、また、20 年度後期で終了となる科目も多いため、自己点検・評価のシステムとして大きく改善すべき点は見当たらない。

個別の項目としては、Zoom による遠隔での個別指導に難しさを感じた教員がいたり、個別指導は対面で行ったので成果が上がったと感じた教員がいたり、遠隔であることによって指導がしにくい面があったものと考えられる。今後、対面に戻ることを前提とするなら、それで問題は解消されるが、悲観的にまだ遠隔での指導が必要である場合を念頭に置くなら、対面と同じにはできないことを前提に、せめて遠隔での指導のメリットを活かす方向で指導の方針を固める必要があるだろう。

**(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点  
（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）**

特に思い浮かばないが、具体的にどのあたりに遠隔での難しさを感じたのかを聴取し、全体へのフィードバックをすることは検討に値するかもしれない。

**(4) その他（自由記述）**

提出日：2021 年 6 月 30 日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 心理学科

氏名 小松 貴弘 大和田 攝子

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

前期で初めて実施された遠隔授業の経験を踏まえて、後期でも遠隔授業となった科目においては、専任教員、非常勤教員ともに、それぞれの科目の内容と特性に応じて、試行錯誤を重ねながら、manaba をより積極的に、かつ有効に活用することに注力したことがうかがわれる。

Zoom が全面的に使用可能になるなど、遠隔授業において活用が可能な手段が増えたことで、教員にとっては前期よりも内容と方法においてより練り上げられた授業の実施に繋がったことを読み取ることができる。具体的には、実生活に結びつけたテーマ設定、分かりやすい資料の作成や動画の配信、映像資料や新聞記事の活用、課題への丁寧なコメント、個別指導などはいずれも高評価を得ていることが分かる。また、Zoom のブレイクアウトルームを用いたロールプレイやグループ・ディスカッション、各自が興味を持ったテーマに関する発表など、アクティブ・ラーニングを積極的に導入している授業もいくつか報告された。

自己点検・評価表からは、それぞれの教員が授業アンケートの結果を受け止めて自らの授業のあり方の点検に努めていることが伝わってくる所であり、自己点検評価は機能していると評価できると思われる。

### (2) 改善すべき点

授業外学習のアンケート結果の受け止めについては、遠隔授業中心となったことによる全体的な課題の量の増加とそれに伴う学生側の負担の増加を考慮して、どの水準が適切であると考えれば良いか、教員の側にも悩みがあることがうかがわれる点検票が見られた。授業アンケートにおいて、授業外学習時間について学生自身がどのように感じているかを問う工夫があれば、教員側にとっての判断材料が増えることにつながるかもしれない。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 (学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

2021 年度前期も緊急事態宣言の発出に伴い遠隔授業中心の授業に切り替えねばならない期間が生じるなど、今後も対面授業と遠隔授業の両方について FD の向上が求められる状況が続くと思われる。これは教員にとっても負担の続く状況であり、特に遠隔授業に関して、講義、演習、実習といった多様な授業形態における取り組みの例と工夫について、適宜必要に応じて共有可能な情報の発信のあり方が検討されても良いかもしれない。

### (4) その他（自由記述）

提出日：2021 年 6 月 21 日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 都市生活学科

氏名 花田 美和子 稲見 直子

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

全体を通じ、各教員は実際の授業や授業アンケート、および学生からの意見を踏まえ、自身の授業を丁寧に振り返った上で、授業の成果と改善点を具体的に分析できていることが確認できた。とりわけ、改善点については、発生した課題（主に学生間と教師・学生間のコミュニケーションの問題）に関して ICT をどのように活用していくかといった点も踏まえて提案がなされており、自己点検評価による効果がみられる。

### (2) 改善すべき点

大半の教員は、上述のように丁寧な自己点検評価が行われていたが、中には課題・問題点のみに言及し、今後どのように改善していくかといった点にふれていない方も数名みられた。課題・問題点の把握だけでなく、課題や問題がなぜ発生したのか、それらを解決するにはどうすればよいか、これらの点の検討が不足しているため、一部の教員は改善を要する。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 (学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

学生の授業アンケートの提出が不十分な授業もいくつか見受けられたため、学生が確実に授業アンケートを提出できるような支援・工夫が必要である。

非常勤の教員におかれては、ICT をほとんど活用していない方もおられるのでサポートが必要なものと思われる。

### (4) その他（自由記述）

特になし。

提出日：2021 年 6 月 14 日

2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 食物栄養学科

氏名 田中 あゆ子 橋本 沙幸

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

- ・自己点検・評価票より、それぞれの科目担当者が試行錯誤を続け、授業の改善に取り組んだ様子が伺えた。
- ・遠隔授業においても、Zoom や MS Teams を用いた説明に加え、manaba の掲示板等を活用し、学生とコミュニケーションをとりながら双方向での授業を行っていた。
- ・調理実習室のモニターの増設により、授業運営が円滑になったことが伺えた。

**(2) 改善すべき点**

- ・対面授業欠席時の遠隔対応は、欠席者に学習機会を提供するメリットがある一方で、対面授業に出席している学生の作業負担を増大させることが見えてきた。遠隔授業のメリットとデメリットを精査して、今後の授業運営に反映させる必要がある。
- ・対面授業を欠席した学生への遠隔対応について、教員間で異なる対応(コロナ欠席届提出者のみ、コロナ以外の傷病者を含む、すべての学生に対面と遠隔の両方で対応するなど)があった。既に学科内で確認が行われているが、今後も教員間で齟齬が生じないように注意する必要がある。
- ・学生の授業外学習時間が短く、工夫が必要と感じている教員が多い。
- ・1 年次から文章作成に関する修練、計算力の向上、基礎化学の知識を習得する学修機会の検討が必要。

**(3) 改善に向け、学科(センター)として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点  
(学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)**

- ・実験・実習科目の授業外学習に対する認識が教員間で異なる。学科内で意見交換をするなどして学生にとってより良い学習内容を目指す。
- ・給食実習室など複数の部屋に分かれて授業を行う教室へのタブレットやスピーカーの設置が望ましい。

**(4) その他(自由記述)**

特になし。

提出日：2021 年 6 月 21 日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 子ども発達学科

氏名 大下 卓司

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

前期に引き続き、自己点検を行った全ての教員が、対面授業、遠隔授業の準備、実施、評価に試行錯誤を重ねた様子が記されていた。再履修者用の科目を除き、3・4年生の科目が中心であり、1月までは多くの授業が対面であった。

遠隔授業については、履修環境が確認できたこと・学内の施設も利用可能であったこともあり、ZOOMなどを積極的に取り入れた授業が多くみられた。その中でいかに授業を盛り上げるのか、という点について試行錯誤が見られた。しかしながら、気心が知れた学生同士でもあるため、遠隔でもグループワークが機能するという報告も見られた。

対面授業については、感染症対策を図りながら、慎重に授業を進めた様子が窺えた。しかしながら、グループワークでの会話を減らし、リスクを抑えるために、対面においても google form などを取り入れ、対面と遠隔を融合した取り組みも見られた。また密を避けるため、例年より学生のグループの少人数化をした結果、学習効果が上がった事例なども報告された。

### (2) 改善すべき点

後期は多くの科目が対面であった。遠隔授業については、学生、教員双方が、前期の経験から慣れてきたとはいえ、遠隔授業におけるコミュニケーションの難しさは複数の授業者から挙げられていた。学生、教員の双方向のやりとりの難しさ、パソコンや文章の読み書きが苦手な学生への負担、ZOOM での話し合いや manaba 閲覧回数など学生間の参加度の偏りが挙げられていた。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 (学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

特に、子ども発達学科の学生が、教育学科の科目を再履修する場合、履修者が1名などになる場合もあり、アンケート回答者が0名の場合などもある。教員に一律に自己点検の提出を求める場合、対応に困ったケースも見られたようである。事情によっては、提出の免除などもあれば、ありがたい。

### (4) その他（自由記述）

テストスピーカーの招聘も、オンラインで実施された授業が複数あった。オンラインであっても、現場職員や当事者の授業参加は、大きな学びや励みになったという意見があった。オンラインであっても継続したい取り組みである。

提出日：2021年6月22日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 ファッションハウジング・デザイン学科

氏名 徳山 孝子 戸田 賀志子

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

対面・遠隔とも松蔭 manaba を活用し、ZOOM、YouTube などを積極的に用いた ICT 教育を効果的に実施している授業が多く、学生からの高評価へと繋がった。遠隔授業では、松蔭 manaba と ZOOM を併用したグループワークをはじめとする学生間のコミュニケーションが図られた。また、教員と学生との双方向性を確保するため、授業内でアンケートを複数回実施し、習熟度を確認する、到達目標に至るまで提出物を複数回添削するなど様々な工夫がなされた。

### (2) 改善すべき点

多くの教員が松蔭 manaba と ZOOM の併用による学修効果の向上について言及した。一方で、各学生が持つソフト（主に PowerPoint）やアプリ、そのスキル、ネット接続など環境の差異をいかにして解消するか、学生個人のデジタル環境についての指摘も見受けられた。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 （学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

学科の支援としては、新たなパソコン教室の拡充によって学生のデジタル環境の改善に取り組んでいる。

### (4) その他（自由記述）

学科全体として、「教わる」のではなく、「自ら学ぶ」学修の実現に向けて、教員（非常勤講師も含む）によるアクティブラーニングなど多くの試みや工夫、取り組みがなされ、学生の学習内容への理解度を深めることに繋がった。

提出日：2021 年 6 月 21 日

## 2020年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教育学科

---

氏名 大下 卓司 垂髪 あかり

---

2020年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

前期に引き続きコロナ禍のなか、自己点検を行った全ての教員が、対面授業、遠隔授業の準備、実施、評価に試行錯誤を重ねた様子が記されていた。以下、遠隔授業、対面授業、それぞれの「良かった点」について整理する。

【遠隔授業】授業準備段階では、レジュメや資料の事前の公開、テキストベースのわかりやすい資料の作成、授業内容にあった動画等の活用などがなされていた。授業実施段階ではほとんどの授業者が ZOOM と manaba を併用し、授業内容の解説やディスカッション、リアルタイムでの学生とのやりとりは ZOOM で、レポートや小テスト、チャット形式でのやりとりや課題に対するテキストベースでのフィードバックは manaba を活用していた。教員が遠隔授業の準備や進行に慣れ、複数のツールを組み合わせながら学生と双方向にやりとりし、授業を進めた様子が窺えた。前期自己点検では、manaba を基本に授業を行なった教員が多く、ZOOM 等の活用推進が課題として挙げられていたため、この点は大きな進歩である。

【対面授業】3密の回避、換気、共有物使用の回避など、各授業者が感染症対策を行いながら授業を進めた様子が窺えた。また、対面授業を中心の授業形態と設定しながらも、manaba と zoom の活用も実施した授業が複数あり、対面授業であっても、教員による ICT 活用は進んでいることが窺えた。

### (2) 改善すべき点

学生、教員双方が、前期の経験から遠隔授業に慣れてきたとはいえ、遠隔授業におけるコミュニケーションの難しさは複数の授業者から挙げられていた。具体的には、学生、教員の双方向のやりとりの難しさ、パソコンや文章の読み書きが苦手な学生への負担、ZOOM での話し合いや manaba 閲覧回数など学生間の参加度の偏りが挙げられていた。ZOOM においては、受講者はカメラオフの状態に参加することが多いため、一方的な講義にならないよう、各学生の理解度や反応を確認しながら授業を進めていくことが大きな課題である。

対面授業においても、感染症対策上、意見交換の場をあまり取ることができなかったことが課題として挙げられていた。感染症対策を行なった上で、可能なかぎりの交流活動を工夫していく必要がある。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 (学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

遠隔授業については、引き続き、ZOOM によるリアルタイムでの双方向交流と、manaba における資料のアーカイブ機能や課題管理などのシステムを継続的に活用・併用することで、授業外学習における ICT の活用及び学習の促進を図れるよう支援を継続して欲しい。また、ZOOM、manaba 以外のツールで有効なものがあれば、積極的に紹介して欲しい。新たに整備された小学

校模擬教室(544)と、導入されたタブレット端末、SKYMENU等の効果的な活用ができるよう、ご支援いただきたい。

#### (4) その他(自由記述)

ゲストスピーカーの招聘も、オンラインで実施された授業が複数あった。オンラインであっても、現場職員や当事者の授業参加は、大きな学びや励みになったという意見があった。オンラインであっても継続したい取り組みである。

提出日：2021年6月9日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 全学共通教育センター

氏名 待田 昌二

### (1) 良かった点

新型コロナウイルス感染症により、講義授業を中心に遠隔授業回が多く、実習・実技など対面授業で行った授業でも、感染対策のため通常とは異なる内容とせざるを得ない場合もあった。学生の評価が懸念されたが、全学共通教育センターが運営する全学共通科目の4系列（松蔭とキリスト教、コミュニケーション、教養、健康スポーツ）のほぼすべての科目で総合評価が3.5以上であり、過半数の科目が総合評価4以上と、学生からは比較的高い評価であった。

遠隔授業で行った講義科目では、manabaへの資料掲示とレポート提出などテキストベースの授業、授業を撮影した動画をオンデマンド形式で見せる授業、Zoomによる同時進行型の授業等、授業方法は様々であった。しかし、授業方式によって総合評価に必ず差が出るということではなかった。これは、テキストベースの授業やオンデマンド型の授業でも授業時間中に掲示板でのやり取りを行ったり、課題の添削を丁寧に返すなどの双方向的なやり取りが行われていたためだと思う。オンデマンド型では授業を繰り返し見られることを評価する学生が少なからずいたようである。また、オンデマンド型、Zoomでの授業ともに、学生が飽きることが無いよう動画資料などをこれまで以上に多く使用したという意見が複数あった。

これまで使用していた講義資料を遠隔授業向けに改変、動画資料の追加作成、課題の添削またはコメントの返信、といった作業のために例年以上に時間を費やされたとのことであった。授業担当者の努力に頭が下がる思いである。

演習、実習的内容を含む授業では講義部分を動画配信し、教員学生間、学生同士のやり取りをZoomで行うといった工夫がなされた。加えて、manabaのプロジェクト機能やZoomのブレイクアウトルームを使用してグループワークやグループディスカッションが試みられた。

また、講義、演習、実習を問わず、これまでmanabaをあまり使っていなかった教員がmanabaに習熟したのはプラスの面であった。対面授業中心になってもmanabaの各種機能を事前事後学習に使っていききたいとの書き込みが多数見られた。

### (2) 改善すべき点

遠隔授業においては、やはり、manaba、Zoom、動画作成に慣れていなかった教員が多く、当初は時間がかかり苦労したようであった。また、学生同士の情報交換で授業進行できた例もあった。これらについては、徐々に習熟していったようである。

受信環境が不足していたり不安定である学生が少なからずいたため、別途資料の作成を行ったり、Zoom録画をクラウドから見るようにするために手間を取られたとのことであった。その際、Zoomの有償ライセンスを使うことができれば便利であったとの意見があった。ただし、Zoom有償ライセンスについては、大学からの提供が進んでおり改善されていると思われる。

Zoomのブレイクアウトルーム等を用いたオンラインでのグループディスカッションについては、予想以上にうまく言った場合もあったようだが、議論が低調なグループもあったとのことであっ

た。そういった場合の対応は、対面授業以上に難しいようであった。

また、遠隔授業では、受講生のモチベーションの違いが対面授業以上に大きくなってしまふとの指摘が多かった。授業前の事前準備を指示することが多くなったが、準備せずに授業に出席する学生が少なからずみられたようだ。

出席管理は各教員とも頭を悩ませたようである。掲示板へのアクセスや課題提出など、複数の手段を組み合わせる出席管理した教員が多かったが、授業時間中の授業参加は十分に監視しがたい。そのため課題提出に重きを置くと、課題が多すぎるというクレームが学生よりあり、適切な課題量の設定に苦勞した教員もいたようである。これらは、学生の個人差もあるため改善は簡単ではないが、学生からのフィードバックを参考に調整していくしかないだろう。

実習的内容を含む授業では、感染対策と実習・実技の両立が難しいとのことであった。かなり工夫をしても、当初予定していた授業内容を変更せざるをえないことも少なくなかったようだ。また、スポーツ実技のように、実技そのものは距離を取ってできても、ペアを組んで行っていた準備運動ができず、相当する準備運動を見つけるのが意外に難しいといった点もあった。

### **(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 （学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）**

すでに大学として取り組んでいることではあるが、学生の IT 能力向上支援、ヘルプデスクによる相談態勢、遠隔授業に関する教員への研修、教員間の情報交換が有効と考える。

### **(4) その他（自由記述）**

提出日：2021年6月21日

2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 キャリア教育センター

氏名 青谷 実知代

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

- ・ ZOOM を活用した双方向の授業実施（アクティブラーニングも可能）が可能になった点。
- ・ 効率的な授業外学習の指示が学生の意欲向上（リアクションペーパー）に繋がった点。
- ・ 授業外学習の時間が増加し、レポート力も身につけられた点。
- ・ ZOOM , manaba , Teams などと連動させた指導方法の導入により、学生に対して丁寧な指導を実現できた点。
- ・ ZOOM のチャット機能を用いたことにより意見交換が従来よりも活発に実施できた点。
- ・ 他者の意見を全員が共有することで講義の理解度が深まった点。

(2) 改善すべき点

- ・ ZOOM 疲れを配慮し、グループディスカッション以外はビデオオフを可能としたため学生の受講態度が十分に確認できなかった点。
- ・ 授業外学習の課題・提出を義務付けることで学生負担が増加が大きくなった点。
- ・ 新聞やテレビなどで経済に関する記事やニュースに関心を持って接する指示の受け入れが十分に実施されなかった点。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点  
（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

- ・ キャリア教育センター・サポートセンターが連携しながら非常勤講師の先生方の問題点を速やかに取り除くよう丁寧な対応を今後も実施していく。
- ・ 資格関連科目の位置付け・見直し。  
→資格に関連する科目を一般教養のキャリア科目に位置付けてあることに疑問を持たれている意見が出された。本来学ぶべき学科・専修での併設が相応しいのではないかと。資格を推奨するあまり、受講生の質に疑念を抱いておられる。どこまで教員が学生一人一人にケアすべきなのか、今後センターとしてもしっかり先生と向き合い、考えていきたい点である。

(4) その他（自由記述）

- ・ 現在キャリア教育センターの科目を見直しているが、改めて全体的な位置付けを明確にし、非常勤の先生方とも共有していきたい。

提出日：2021 年 6 月 21 日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 外国語教育センター

氏名 古川 典代

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

外国語教育センターでは、英語、フランス語、中国語、韓国語、日本語の計 100 科目のうち、提出のあった 90 科目を点検した。これまでは英語科目担当者が、積極的にアクティブラーニングを展開していったのに加え、コロナ禍における遠隔授業においては、他の語種の担当者も不慣れな中で manaba を活用し、Zoom や Teams との併用で双方向のアクティブラーニングを行った。学生への習得成果を上げるべくでき得る限りの努力を惜しまず、授業を対面と比しても劣らないように工夫し、授業を活性化している姿が多く見受けられた。小人数や上位科目クラスではあるが、(2) の当該科目の平均点が 5.00 であるクラスが 6 つもあったのは、遠隔であっても学生たちに十分満足の得られる授業を提供できたことと担当者の尽力を称えたい。

### (2) 改善すべき点

急な対応を迫られた前期に比べ、教員の ICT 活用にも慣れが生じ、manaba 各機能の活用や、その他のツールを積極的に導入して、効率よく授業を展開できていた。一方で ITC を苦手とする教員はまだまだ余裕がない様子で、それに対する学生たちの評価もいまひとつ芳しくないようだ。語種セクションごとにより連携を取り合って、同科目は同質の教育を学生に提供できることが望ましいが、テストの共有などが実現できたところとそうでないところでは、評価のばらつきなどの問題が生じた。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

長引く遠隔授業への対応として、ヘルプデスクができたり、学生への不公平がないような取り組みは評価するが、複数の学生が同一教室内で別々の授業を受講している際に、Zoom では互いの背景音が雑音となってしまっている。学習効果に影響があるので、静かな環境で取り組めるよう配慮をお願いしたい。特に語学教育においては、発音や日本語訳出するなどの音声発話を必要とするため、環境改善が望まれる。

### (4) その他（自由記述）

以前問題になった、大学からの通達の非常勤ネイティブ教員への連絡について、今学期は毎回英語に翻訳して発信し、情報の共有をはかるよう心掛けた。助手や英語セクション長の尽力にこの場を借りて感謝したい。

提出日：2021 年 6 月 13 日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教職支援センター

氏名 松岡 靖

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

- ・2020 年度から初めて遠隔授業となった科目でも、学生の授業アンケート結果も考慮しつつ、各科目担当者が自らの授業の長所と短所を率直に振り返っていた。
- ・2021 年度後期に遠隔授業となった場合でも、より教育効果の高い授業が期待できる。
- ・具体的には、松蔭 manaba や Zoom 等の活用について、全学的な支援や教員相互の情報交換のおかげで改善が見られ、学生たちも 2020 年度前期よりスキルが向上したと思われる。

### (2) 改善すべき点

- ・対面と遠隔のハイブリッドで実施した科目では、学生対応に苦慮していた事例もある。
- ・遠隔授業では学生の意欲や達成感を引き出す指導上の工夫が難しいとの記述もみられた。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 (学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

- ・manaba 上の「2021 年度 テストコース」での全学的支援をこれからも充実して頂けるとありがたい。
- ・資格科目であることや教育効果の担保を考慮すると、できれば対面での実施が望ましく、対面か遠隔かの方針をより早く大学から示して頂けると授業が実施しやすい。

### (4) その他（自由記述）

- ・「教育実習（中・高）」「学校ボランティア実習」などの学外実習科目について、学生の授業アンケートや教員の自己点検・評価の書式・項目がややそぐわない懸念もある。
- ・中等教職科目は履修者が熱心かつ少ない傾向があり、学生の授業アンケートや教員による成績評価が高めになるという事情もある。

提出日：2021 年 6 月 16 日

## 2020 年度後期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教務部

氏名 鳥居 さくら

2020 年度後期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

### (1) 良かった点

遠隔授業の進め方についての記述が多かったです。

課題の提出方法において、完成した成果物を写真に撮ってEメールの添付データとして提出する方法をとられるなど、従来の対面授業では採用されてなかった新たな授業方法を工夫され、学生も新しい授業方法に適応して受講していたことが感じられました。また Zoom を利用した遠隔授業において学生が必ず発言する機会を設け、それにより双方向性を確保し、対面授業と遜色のないようにされていた授業もありました。

対面授業が必須である実技であっても、授業後の復習として、自宅実施した結果の画像を提出し、次の授業での指導に活用するという方法の提案もありました。

実習に関わる講義科目の対面授業において、資料の扱いに注意しながら取り扱うなど随所に感染予防の策を講じられていたことがうかがえました。

### (2) 改善すべき点

Zoom による意見交換は教員の指示の仕方に左右される面がある点を指摘する意見がありました。Zoom では音声による意見交換だけではなく、チャットへの書き込みなどで実施していく方法もあり、そのような手段に変更するとよかったとの意見がありました。また、学生が口頭で発言する際に、学生の自宅でのネット回線が不安定で、タイムラグが生じることがあり、支障が出たことが挙げられていました。

### (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 (学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

学内の Wi-Fi 環境は整備されてきているとの感想がありました。

資格科目については資料を充実させたいという意見があがっていました。

和室の掃除を今後改善してほしいとの要望がありました。

### (4) その他（自由記述）

提出日：2021 年 6 月 4 日